信濃美術館の基本設計にかかる
「県民リレー・ワークショップ」（南信地域）の意見概要

日　時：平成 29 年 9 月 18 日（月・祝）午前 10 時から 11 時 55 分
場　所：男女共同参画センターあいとぴあ 第 2 研修室
出席者：㈱プランツアソシエイツ 代表取締役 宮崎浩氏、副所長 吉満聡氏
松本透信濃美術館整備担当参与、日向信濃美術館整備室長、塩入施設課企画幹
参加者：21 名
概　要

[主な意見等]（アンケートへの回答含む。）

【県民リレー・ワークショップ】

○設計者から直接、設計の考え方を説明してもらえてよかった。

○各会場をリレーして県民の意見を束ねることは大変よいことである。今後、設計案がどのように変わっていくのか見ていきたい。

【全般】

○堅苦しいイメージでなく、観光スポットになる美術館にしてほしい。

○立ち寄れる理由のある施設になってほしい。

○まちづくりの拠点になる施設になることを期待している。

【設計関連】

○建物が目立たずに周りの景色に馴染む美術館、作品の背景になる美術館を目指すことに共感できる。

○美術館の中に創造空間があるとよい。（ワークショップルームや休憩場所など）

○バリアフリーの美術館であっても、上の階から下の階まで車イスで移動すると途中で体力が尽きてしまう。さりげなく動く歩道があると楽に展示が観られてよい。

○県立美術館は県民利用の視点が大切である。南信地域からすると、すごい企画展が開催される時や観光で善光寺に行ったついでに行く以外に信濃美術館を使うとすれば、県民ギャラリーの頻度が高い。県民ギャラリーの使い勝手がよくないと県民に受け入れられないのではないか。

○賑わいのある美術館を目指すとなると駐車場の確保が心配である。

○善光寺から美術館に自然に誘導する工夫があれば、より多くの人が美術館に行き

やすくなるのではないか。そうなれば、若者は車を少し離れた場所にとめて歩くのではないか。

○善光寺までの石畳を延長して城山公園や美術館まで誘導したらどうか。

○自然災害の犠牲者が忘れられ風化しつつある。美術館の一室に自然災害の犠牲者を追悼する場を設け、事故や災害の風化を防ぎ、県民に語り継いでほしい。板壁には事故現場の木材を使い、木目浮かし彫りで追悼の絵画を描いてほしい。

○あまり制約が多いと設計するのが大変である。設計者には楽しく設計してほしい。

【運営関連】

○体験型のイベントを開催してほしい。

○美術館は敷居が高いイメージがある。美術館に入った瞬間に、親が子どもに「しーっ」とやる行動をよく見かける。本来、美術館は作品を鑑賞したり感じたりする場所である。気づきや感想を展示室で話し合ってもよいのではないか。

○作品解説の音声サービスは個人的には好きではない。まずは作品を観て、自分がそれをどう思うかが大事である。

○施設のバリアフリーと同時に心のバリアフリーも進めてほしい。

○展望広場からの眺望をいかに多くの人に知ってもらうかが大事。広報に力を入れてほしい。

（以上）